

第32回

グローバル感染症研究セミナー



2024年10月29日
16:00-17:00

参加登録はこちら

<https://forms.gle/Twdsi15d5FffFV268>



演者：塚本 健太郎 先生

大阪大学 微生物病研究所附属感染症国際研究センター
人獣共通細菌感染症研究グループ 特任准教授

ハイブリッド開催

(Zoom、グローバル感染症研究センター棟 1F多目的室)

バルトネラ属細菌による血管新生のメカニズムと感染戦略

バルトネラは様々な動物の血液中に潜む細菌であり、これら保菌動物との接触やダニ・ノミ・シラミなどのベクターを介してヒトに感染する。バルトネラ菌種の中で最もよく知られているのが、猫ひっかき病の原因となるバルトネラ・ヘンセレである。本菌はヒトに感染すると、血管内皮細胞内に侵入し、細胞増殖を促進させて血管新生を引き起こす。我々は、バルトネラが誘導するこの血管新生の責任因子が、細菌が分泌するオートトランスポートタンパク質の一つであることを発見し、BafA (Bartonella angiogenic factor A)と命名した。BafAは菌体外に分泌された後、血管内皮細胞膜上に存在する血管内皮増殖因子 (VEGF) 受容体に結合して、下流のMAPKシグナルを活性化する。VEGFの機能を模倣するBafAは、細菌由来では初めて発見された血管新生因子である。

本セミナーでは、BafAの発見経緯、バルトネラ菌種・菌株間の多様性、および本因子の病原性・感染性への関与などについて、最新の研究成果を紹介する。

世話人 河本 聡志

(グローバル感染症研究センター 教授)

セミナー問合せ先

大分大学グローバル感染症研究センター共同利用・共同研究係 (5444)

TEL 097 (586) 5444 E-mail glocal@oita-u.ac.jp